

三田の「人」に焦点を

フォーカスさんだ

FOCUS
SANDAI

No.7

第1歩目を手伝いたい。

特定非営利活動法人 あすなろ

理事長 藤田行敏

いろんな願いを叶える

INTERVIEW インタビュー

Q1 特定非営利活動法人あすなろとは？

自分に向き合いたい、自分に合った仕事を探したい、今よりも少しでも向上したいと願う。そんな方の「～したい」に応えます。働きたい、友達が欲しい、コミュニケーション能力をつけたい、独り立ちしたい。いろんな願いを叶える、第1歩目をお手伝いします。

【1つ目：精神科訪問看護】

精神疾患の方のお宅に訪問して、お話をしたり、お薬の相談を受けたり、一步外に出るためのお手伝いをします。精神科の疾患や症状についても相談を受けます。

【2つ目：就労継続支援B型 新鮮組】

身体的・精神的などの障害を持ち、一般就労が難しい人に対し、訓練目的で作業をしてもらい工賃を支払います。お米や農作物の栽培。就職支援を行うこともあります。

【3つ目：相談支援事業】

計画相談といって、利用者さんがどんな福祉サービス利用するのか、プランの作成もお手伝いします。三田市の委託事業では、「きいてネット」の中で三田市精神障害者支援センターとしての運営を担っています。悩み事や困りごとなど、幅広い相談を受けています。

【4つ目：兵庫県からの委託事業】

阪神北圏域の相談支援コーディネーターを務めていて、相談員のバックアップやアドバイス、地域の相談体制の整備等を行っています。

Q2 今後の活動は？

精神障害の方だけではなく、まち全体を考える活動をしたいです。子ども食堂や寺子屋、送迎や見守り活動など、それぞれ個々でされている活動が結びつけば、誰もが暮らしやすいまちになります。それぞれの活動の交わりや団体同士の繋がりをつくり、連携したいです。

ふじた ゆきとし
藤田行敏

障がい者に対する、生活支援及び社会参画促進に関する事業を行う。障がい者に対する一般市民の理解を深め、相互に認め合い・支え合う豊かな地域社会づくりに寄与することを目的に、2009年に同法人を設立。三田市内で年4回ほどの講演会活動を行う。

Q3 大切にしていることは？

患者様と伴走する、寄り添うという理念を大切にしています。患者様が運転手なら、自分たちはナビゲーター。たまには運転手も道を間違えるので、そんな時はまた違う道を教えます。一緒に目的を設定して、最短のルートを考え、その人に合った様々なルートを提案します。ちなみに、相談する時には話し方や表情から聞きやすい雰囲気をつくるようにしています。また、方向性を示すだけでなく、一緒に同行し、一緒に作業もします。

Q4 どんな時が嬉しいですか？

相談でお話を聞いていて、何も答えてくれない人もいます。でも、一生懸命悩みを打ち明けてくれた時には、相談者冥利に尽きます。また、素直にありがとうと言われた瞬間は嬉しいです。でも、1回で全てを聞けないので、何度も繰り返して聞きます。訪問では、何しに来たんや！と言われても、最終的に喜ばれることもあります。精神障害の患者さんは外出せず、家に籠っている傾向がありますが、訪問して接している中で、外に出てくれるようになったときも嬉しいです。

Q5 どのように活動を広げていますか？

病院・コミュニティセンター・クリニック・公共施設・知り合いの個人や団体に、新聞を送り続けています。月に1400件、送り先は900件です。声をかけてもらいやすいように、コロナ禍も関係を切らないようにしています。また、精神障害に関しての偏見も強く、なにか事件が起こると、精神障害は怖いものというイメージがつくられます。データとの関連性は無く、実際はそんなことはないんです。だから、正しく社会に受け入れてくれるよう伝え、啓発していきます。子どもがオバケを怖がるのと一緒に、実体を知らないから怖いと思う。実際は、生真面目な人が多いし、自分に正直な分、生き辛さを抱えて、そのストレスから発症されることが多いです。そういう現実を知って欲しいと思います。